

Strix 5 : 47-52 (1986)

栃木県におけるオオジシギ *Gallinago hardwickii* の分布と生息環境

遠藤孝一¹・平野敏明²

はじめに

オオジシギ *Gallinago hardwickii* の繁殖分布は、本州中部以北および北海道、サハリ
ン、南千島と著しく限られている (日本鳥学会 1974, Johnsgard 1981). 近年、主要な越冬地であるオーストラリアでは生息数が減少しつつあり、繁殖地での生息状況の調査が注目されている (Naarding 1983).

オオジシギの繁殖期における調査は、日本野鳥の会(1980)による生息分布調査と、Fu-
jimaki & Skira (1984)の概説的なもの、新田・藤巻(1985)の日周活動をあつかったもの
があるに過ぎない。本州における本種の詳しい生息状況は、ほとんどわかっていない。

このような観点から、筆者らは栃木県におけるオオジシギの生息状況に興味を持ち、生
息分布と生息環境について調査を行なった。今回の調査では巣卵、雛を発見することがで
きなかつたが、生息環境、生息数の減少などいくつか興味ある結果が得られたので報告す
る。

調査地および調査方法

栃木県におけるオオジシギの繁殖期の生息記録を集めるにあたって、聞き取り調査と現
地調査を行なった。対象期間は、1984年—1986年の5月から6月下旬である。聞き取り調
査は、日本野鳥の会栃木県支部の会員に対し、同支部機関誌を通してオオジシギの記録の
提供を呼びかけた。また、栃木県の各地域で精力的に活動している会員7人に対しては、
電話や手紙でオオジシギの生息の有無、その環境について直接問い合わせた。

現地調査は、30か所の地域で行なった(図1, 表1)。これらの地域を選定するにあたって
は、聞き取り調査や過去の文献を参考にした。さらに、清棲(1978)などの文献から、オオ
ジシギの生息環境が「草原」であることが予想されたので、国土地理院発行の2万5千分
の1の地図から生息可能な地域を選出した。これらの地域には、牧草地や湿原、工業団地
造成地、河川敷草原、森林伐採跡地などの各種草原が含まれている。

観察は、5月から6月下旬の早朝、午前5時から7時の間に行なった。この時間帯は、
新田・藤巻(1985)によればオオジシギのディスプレイ飛翔が活発なときで、生息調査に最
も適していると考えられている。調査は、これらの地域を調査期間中少なくとも1回は訪
れ、双眼鏡を用いて見える範囲で行なった。また、30分以上の定点調査を合わせて行な
った。調査項目は、オオジシギの個体数、行動、繁殖の有無、おおまかな植生と草丈である。

1986年の現地調査は、オオジシギのおおまかな生息個体数を把握することに努めた。各

1986年9月20日受理

1. 〒321 栃木県宇都宮市平松本町868-7

2. 〒320 栃木県宇都宮市塙田5丁目2-51 グリーンハイツ507

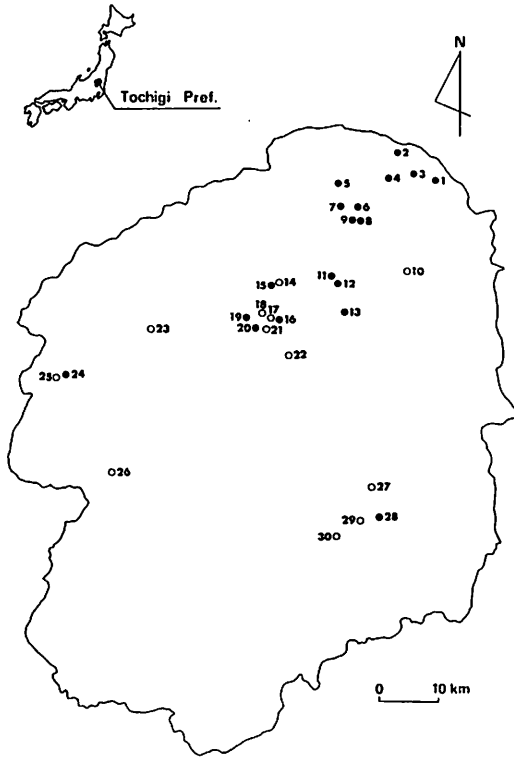


図1. 調査地およびオオジシギが観察された地域(●)と観察されなかった地域(○). 調査地の番号は表1と一致している.

Fig. 1. Map of study areas, observed areas (●) and not observed areas (○). The figures of study areas are coordinate with Table 1.

のススキが茂る中に樹高70cm—1.5mのヒノキが植林された環境である。また、この環境には、別荘分譲地として開発された同様の景観をもった草地も含めた。黒磯市青木や那須町豊原など3か所がある。

工業団地造成地は、近年、工業団地として整備され、アレチマツヨイグサやヨモギ、ハルジオンが茂る中に草丈1m前後のススキが散在する環境である。宇都宮市清原工業団地や芳賀町下高根沢工業団地など4か所がこれにあたる。

山地性草原は、奥日光戦場ヶ原のような高層湿原と奥日光小田代原のような乾燥した草原に分けられる。前者は、スゲ類が30—60cmに茂り、ズミやシラカンバ、カラマツの幼樹が点在する環境である。後者は、草丈が20cm以下のササ類やスゲ類の草原で所々ホザキシモツケやズミのブッシュ、シラカバの幼樹が点在している。

灌木林は、草丈30cm前後の草原に樹高70cm—1mのレンゲツツジが茂る環境で、矢板市八方ヶ原大間々台がこれにあたる。

河川敷草原は、河川敷内にできた草地で、チガヤなど草丈の低い植物とススキやハルジオンなどの草丈が60cm—1mの植物が繁茂する草原の中に、樹高2m前後のアキグミが散

地域の個体数は、重複を避けるために同時に観察した個体数の最高値をもって表わした。したがって、厳密な生息個体数ではないが、何年かのちに同様の調査を行なったときの比較資料になると思われる。

調査地の環境

調査を行なった30か所の環境は、牧草地、森林伐採跡地、工業団地造成地、山地性草原、灌木林、河川敷草原の大きく6つに分けることができる。

牧草地は、なだらかな斜面や平坦地にひろがった人工的な草地である。今回の調査では、19地域が含まれ最も多かった。牧草地は、草丈が30cm—1mのイネ科植物が繁茂する草丈の高い地域と、草丈が30cm以下の草丈の低い地域にわけることができる。前者には、那須郡那須町の大谷開拓や小深堀、黒磯市小結、戸田、西那須野町千本松牧場などが、後者には今市市大笹牧場や矢板市八方ヶ原学校平牧場、栗野町横根山などが含まれる。

森林伐採跡地は、近年アカマツ林や雑木林が伐採され、草丈が60cm—1m

表1. 調査地の概要と観察個体数

Table 1. Study areas and individual numbers of Latham's Snipes observed in 1986. Habitat A : Deforested area, B : Pasture, C : Developing industrial park, D : Shrub, E : Mountain glassland, F : Flood plain.

No. 調査地 Study area	標高 Altitude (m)	環境 Habitat	草丈 The height of grass(cm)	観察個体数 No. of individuals observed.
1. 那須町豊原	400	森林伐採跡地A	60—100	0(1)* ¹
2. 那須町大谷	700	牧草地B	30—40	9
3. 那須町千振	500	牧草地B	60	1
4. 那須町小深堀	500	牧草地B	30—40	6
5. 那須町柳沢	500	牧草地B	30	2
6. 黒磯市小結	390	牧草地B	50—70	1
7. 黒磯市戸田	480	牧草地B	30	3
8. 黒磯市青木	420	森林伐採跡地A	50—100	4
9. 黒磯市青木四区	430	森林伐採跡地A	50—100	7
10. 黒磯市鍋掛	350	牧草地B	20—30	0
11. 西那須野町千本松牧場	350	牧草地B	20—100	8
12. 西那須野町赤田	280	工業団地造成地C	100	1
13. 大田原市野崎	240	工業団地造成地C	60	0(1)* ²
14. 矢板市八方ヶ原学校平	1050	牧草地B	10	0
15. 矢板市八方ヶ原大間々田	1220	灌木林D	30—40	0(1)* ²
16. 矢板市長井	550	牧草地B	30	1
17. 矢板市大覚寺	750	牧草地B	20	0
18. 塩谷町上上平牧場	800	牧草地B	20—50	0
19. 藤原町釈迦ヶ岳開拓	700	牧草地B	30	1
20. 塩谷町豊月平放牧場	700	牧草地B	30—50	1
21. 塩谷町高原	680	牧草地B	40	0
22. 塩谷町高原牧場	280	牧草地B	10—50	0
23. 今市市大笹牧場	1200	牧草地B	10	0
24. 日光市戦場ヶ原	1400	山地性草原E	30—60	2
25. 日光市小田代原	1400	山地性草原E	20	0
26. 粟野町横根山	1200	牧草地B	10—20	0
27. 高根沢町御料牧場	140	牧草地B	10—40	0
28. 芳賀町下高根沢	130	工業団地造成地C	30—100	2
29. 宇都宮市清原工業団地	120	工業団地造成地C	30—60	0
30. 宇都宮市上桑島	94	河川敷草原F	20—100	0

*¹, 1984年の記録 *², 1985年の記録

The figure in parenthesis indicates observed numbers of snipes in 1984 (*¹) and in 1985 (*²).

在する環境である。宇都宮市上桑島の鬼怒川がこの環境である。

結果および考察

1984年から1986年の繁殖期に調査を行なった30か所のうち、オオジシギの生息が確認された地域は18か所であった(図1)。このうち1986年に生息が確認された15か所では、少なくとも合計49羽が観察された(表1)。これら18地域の標高は、海拔130m(芳賀町下高根沢)から海拔1400m(日光市戦場ヶ原)で、多くは海拔280mから700mの地域であった。

生息記録が得られた地域の多くは、栃木県の北部に集まっていた(図1)。特に、西那須野町、黒磯市、那須町では1986年に記録された49羽のうち42羽が観察されている。これら以外の地域からは、それぞれ1-2羽が観察されただけであった。

生息が確認された18地域を環境別にみると、牧草地は19か所中10か所、森林伐採跡地は3か所中3か所、工業団地造成地は4か所中3か所、山地性草原は2か所中1か所、灌木林は1か所中1か所、河川敷草原は1か所中0か所であった。これらの草地の景観は著しく異なっているが、草丈が30cm-1mと高いことで一致していた。一方、草丈が10-20cmと著しく低い草地からは、生息記録は得られなかった。

次に、以前には生息が確認されたのに今回の調査では確認できなかつたり、観察個体数が明らかに減少している地域があった。前者には、黒磯市鍋掛や宇都宮市清原工業団地が、後者には那須町豊原や芳賀町下高根沢、日光市戦場ヶ原があげられる。

黒磯市鍋掛では、1973年5月中旬に4羽前後が、1981年5月21日に1羽が草丈60cm前後のハルジオンやススキの草原の上空でディスプレイ飛翔を行なうのが観察された。宇都宮市清原工業団地では、1983年6月3日に草原の電柱にとまって鳴く1羽を観察した。これらの地域では、1984年以降生息は確認されていない。

那須町豊原では、1970年ごろの5月にはディスプレイ飛翔する5羽前後が、1984年6月13日には1羽が観察された。しかし、1986年5月21日、6月11日にそれぞれ1時間調査を行ったが1羽も観察できなかつた。芳賀町下高根沢の工業団地造成地では、1983年5月にディスプレイ飛翔する4羽を観察したが、1986年の調査では2羽を観察しただけである。日光市戦場ヶ原では、1977年5月29日に10羽が記録されている(清棲保之 1978)。また、1981年5月27日には赤沼から三本松にかけて5羽を観察した。しかし、1986年5月28日にはほぼ全域を調査してディスプレイ飛翔する2羽を、同年6月8日には赤沼から三本松にかけて1羽を観察しただけであった。

以上のように、1984年から1986年に栃木県下30か所で調査を行なったところ、18地域でオオジシギの生息が確認された。これらの地域は、草丈が30cm-1mの植物が繁茂する草地であった。草丈の高い草地は、Fujimaki & Skira(1984)が指摘しているように、オオジシギが姿や巣卵、雛をかくすのに好ましいにちがいない。しかし、生息が確認できなかった12か所のうち4か所では、草丈が30cm以上の牧草地であるにもかかわらず、オオジシギは生息していなかった。牧草地の場合、定期的に刈り取りを行なう場合があるので、そのような人為的影響も関係しているのかもしれない。宇都宮市の鬼怒川河川敷草原からも、オオジシギの生息記録は得られなかった。鬼怒川の場合、その理由としては面積が狭いことと、石ころの河原に発達した草地であるため、オオジシギの好むミズなどが得られないことが考えられる。今回の調査では、草地面積とオオジシギの棲み付き状況との関係に

については調べていない。今後の調査の課題にしたい。

ところで、調査を行なった30か所のうち、5か所では以前に生息が確認されたのに今回の調査ではまったく記録されなかったり、生息数が著しく減少していた。これらのうち、日光市戦場ヶ原を除く4か所では、その理由は明らかに生息環境の悪化が考えられる。黒磯市鍋掛の場合は、大部分の牧草地が表土を取り去られたのちムギが栽培され、残った草地も草丈が20cm前後になってしまった。那須町豊原は別荘分譲地で、以前はススキの草原にアカマツやカシワの低木が点在する環境であったが、現在は樹高2～3mのアカマツやコナラの低木が茂っている。ススキの草地は、谷筋に細く残るだけである。宇都宮市清原工業団地や芳賀町下高根沢の場合は、工場誘致のために草丈の高い草地の面積が著しく狭くなった。

一方、日光戦場ヶ原の場合は、その理由がよくわかっていない。近年、戦場ヶ原の環境が著しく変化したとは考えられない。ただし、遠藤・平野(1983)がノビタキの減少で指摘した1982年6月の豪雨の影響は、オオジシギの場合にもあてはまるかもしれない。この大雨で湯川が氾濫し、湿原の大部分が水をかぶったので、地上に営巣するオオジシギの繁殖成績が著しく悪かったと考えられる。

今回の調査で、オオジシギの生息環境として分譲地や若齢植林地の伐採跡地、工業団地造成地が含まれていることがわかった。しかし、これらの地域からは、何年かのちにはオオジシギは、姿を消してしまうことが予想される。伐採跡地は樹木の成長によって、工業団地は工場の建設によって草地がなくなるからである。今後、栃木県におけるオオジシギの生息状況がどのように変化するのか、調査を続けていきたいと考えている。

謝 辞

この研究は、日本野鳥の会栃木県支部研究委員会の活動の一環として行なった。阿久津八郎、河内辰彦、村山二郎、中山正匡、刑部節、関功、手塚功、塚本洋三、渡辺知義の各氏には、野外調査や情報提供で協力いただいた。藤巻裕蔵博士と花輪伸一氏には文献資料を得るにあたってお世話になった。樋口広芳博士には、原稿を読んでいただき貴重な助言をいただいた。以上すべての方々にお礼申しあげる。

要 約

1. 1984年から1986年の繁殖期に、栃木県におけるオオジシギの生息分布と生息環境の調査を行なった。調査方法は、聞き取り調査と現地調査を用いた。
2. 3年間に18地域からオオジシギの生息記録が得られた。これらの地域の標高は、海拔130mから1400mであった。1986年の調査では、15地域でオオジシギの生息を確認し、少なくとも49羽を観察した。
3. 繁殖期におけるオオジシギの生息環境は、牧草地、森林伐採跡地、工業団地造成地、山地性草原、灌木林で、すべて草丈が30cm以上の植物が繁茂した草地であった。
4. 以前はオオジシギが生息していたにもかかわらず、今回の調査ではまったく記録されなかったり、生息個体数が明らかに減少した地域があった。これらの地域の多くは、生息環境の悪化が原因と思われた。

引用文献

- 遠藤孝一・平野敏明. 1983. 栃木県におけるノビタキの繁殖分布と繁殖環境. *Strix* 2: 12-18.
- Fujimaki, Y., & I.J. Skira. 1984. Notes on Latham's Snipe *Gallinago hardwickii* in Japan. *Emu* 84: 49-51.
- Johnsgard, P.A., 1981. The plovers, Sandpipers, and Snipes of the World. Univ. of Nebraska Press, Lincoln.
- 清棲保之. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑, 補遺・総索引. 講談社, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑II. 講談社, 東京.
- Naarding, J.A., 1983. オーストラリア南部におけるオオジシギ. 第2回日豪渡り鳥等保護会議資料(1). 環境庁.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録改訂第5版, 学習研究社, 東京.
- 日本野鳥の会. 1980. 鳥類繁殖地図調査 1978. 日本野鳥の会.
- 新田和弘・藤巻裕蔵. 1985. 繁殖期におけるオオジシギの日周活動の季節変化, 鳥34: 49-55.

The habitat and distribution of the Latham's snipe
Gallinago hardwickii in Tochigi prefecture.

Koichi Endo¹ · Toshiaki Hirano²

- 1) The distribution and habitat of Latham's snipe *Gallinago hardwickii* in the breeding season were investigated from 1984 to 1986 in Tochigi Prefecture, central Honshu. Observation records were gathered by personal communication and field work.
- 2) The observation records were obtained from 18 areas. These areas ranged from 130 m to 1400 m above sea level. Forty-nine snipes were observed from 15 areas in 1986.
- 3) The breeding habitat of Latham's snipes was pastures, deforested areas, developing industrial parks, mountain grasslands and shrubs. These habitats were covered with vegetation of up to 30cm in height.
- 4) In some areas where Latham's snipes had been observed before, they were not observed in this study. Also there was marked decrease of individual numbers of Latham's snipes in several areas. The reason for the decrease may be that suitable grassland disappeared because of tree growth and cultivation.
 1. 868-7 Hiramatsuhoncho, Utsunomiya, Tochigi 321.
 2. c/o 507 Green Heights, 5-2-51 Hanawada, Utsunomiya, Tochigi 320.